



新たな発見が生まれる

郷土の歴史を学ぶ

伝統文化を継承する

気軽に自由に過ごす

# まち博へよう

飛驒高山  
まちの博物館

城下町高山の新しい交流拠点「飛驒高山まちの博物館」

その収蔵品を紐解くと、現在に生きるわたしたちと過去の先人たちとの、刻を超えた出会いが待っています。

広報たかやまでは、収蔵品とそれにまつわるエピソードを紹介していきます。



実際に使用されていた「まとい」

## 人の魅力、まちの魅力、高山の魅力 第十二章 大火と防災

城下町高山には数多くの火災の歴史がありました。

飛驒国主となった金森長近は、天正16年（1588）より築城を始めました。城下には街道を引き込み、商業経済を重視した町が形成されました。

木造建物が密集した城下町では、ひとたび火が出ると類焼を招き、享保7年（1724）以降、家屋の焼失が百件を超す大火が6回もありました。当時は火を消すというより延焼を防ぐ消火活動で、火が拡大すれば両隣の建物を破壊できたことも火災の際の了解事項とされていたほどでした。一方で延焼を防ぎ、燃えても最小限にとどめることを前提とした町づくりがなされてきました。その中で土蔵は、大変高価だった家財を厚い土

壁で守ると同時に、敷地裏手に連続して配置され、防火帯としての役割も果たしました。

現代の消防活動にもその心は受け継がれ、出初式などにその歴史を見ることが出来ます。まちの博物館には、火消道具や衣装、火災の歴史が分かる年表等が展示しています。町中では、実際の土蔵や防火の願いが込められた秋葉神社を各所で見ることが出来ます。

火災に対する人々の考え方を思いながら散策すれば、また違った景色に出合えるのではないのでしょうか。

※次号の「まち博へよう」はお休みします

問合せ先

まちの博物館  
☎32-12005

### 臨時休館のお知らせ利用のご案内

6月18日(月) 午後7時から  
6月19日(火) 午後9時まで

※施設維持作業のため

### 飛驒の匠写真展

6月16日(土)まで開催中です。

### 利用のご案内

- ◆開館時間 展示室 午前9時～午後7時  
研修室 午前9時～午後9時  
庭園 午前7時～午後9時
- ◆休館日 無休（臨時休館6月19日）
- ◆観覧料 無料
- ◆駐車場 空町駐車場（市民の方は2時間無料です※証明書要）  
〒506-0844 高山市上一之町75 ☎32-1205 FAX35-1970  
（まちなみバス「まちの博物館前」下車すぐ）

### 市長だより⑧

高山の元気を号砲に込めて  
ウルトラマラソンに臨みます

高山市長 國島芳明

全国から千人を超えるランナーが出場し、市内で100kmと72kmを走る「飛驒高山ウルトラマラソン」が、6月10日にいよいよ開催されます。開催に先立ち、大会を支えてくださる多くのボランティアの皆様をはじめ、関係者の方々のご協力に対して、深く感謝申し上げます。

また当日、市民の皆様には、浴道からの温かい声援でランナーを応援いただきますようお願い申し上げます。当市の魅力を満喫できるコースに、飛驒人の優しさや温かさが相まった支援や声援が寄せられることで、必ずや大成功に終わるものと確信しています。

今年度は国体冬季大会を皮切りに、今月のウルトラマラソン、9月の国体本大会、そして10月の全国和牛能力共進会（長崎県大会）など、高山の元気や魅力、ブランドイメージなどを全国に発信し続ける絶好の機会が相次ぎます。その機会の一つ一つに、市民の皆様的心を一（いつ）にする「ひとつところ」がまさに求められています。

飛驒高山ウルトラマラソンのスタートで放たれる号砲。その号砲に高鳴る鼓動は選手の皆様だけのものではございません。

光り輝く高山市の将来を確固たるものとすべく、千載一遇の好機である今年に臨み、私も、一層力強く走り続ける所存です。